

目 次

〈事例研究〉

ロールシャッハ法とハンドテストにおける対人反応の意味	佐々木裕子	1
偽解離性同一性障害のロールシャッハ事例	青木佐奈枝	10
広汎性発達障害のロールシャッハ・テストにおける特徴 ——再検査を通して	鈴木朋子・吉野真紀・内田良一・上野千穂・木下利彦	18

〈資 料〉

広汎性発達障害者のTAT反応に関する研究	石牧良浩	27
ロールシャッハ図版の向きにともなうコードの産出率の検討 ——領域・発達水準・決定因子の考察を中心に	安田 傑	35

〈大会講演〉

退行理論と投映法 ——退行の健常と病理	馬場禮子	43
ロールシャッハ法の学び方	上芝功博	47
心理検査報告書の書き方	加藤志ほ子	52

〈大会シンポジウム〉

ロールシャッハ法の臨床的活用——各学派の特徴と実際 シンポジウム企画にあたって	深津千賀子	59
形式・構造解析（阪大法）の視座	石橋正浩	60
名大法の特徴を活かした、臨床場面での人間理解 ——「思考・言語カテゴリー」を用いて	森田美弥子	62
ロールシャッハ法の臨床的活用 ——力動的解釈の立場から	吉村聰	63
指定討論要旨	佐藤忠司	66
指定討論要旨：ロールシャッハ・テスト解釈における独自性と普遍性	氏原 寛	66
会務報告		68
投稿・執筆要項		87